

■光永星郎 他に先駆けて通信と広告事業を扱う企業を着想し、後に広告専門の大企業に発展する{電通}を創業した。

みつながほしろう

薩長同盟・1866= 熊本県八代郡野津村で郷士の長男に生まれ、

明治維新・1868= 2歳：〈明治維新〉で、

貧しい農家となった家を手伝いながら、何とか小学校へ通い、

明治6年政変 1873= 7歳：

初の民間工場1875= 9歳：

一層の勉学を志して、

西南戦争・1877=11歳：

琉球処分・1879=13歳：徳富蘇峰の父らが建てた熊本の{共立学舎}へ入学し、

明治14年政変1881=15歳：

豆腐売りをしながら通ううち、自由民権的行動で一時退学処分を受けたことなどに嫌気がさし、

秩父事件・1884=18歳：

内閣発足・1885=19歳：自ら中退して上京、士官を志して予備校に通ううち、蒲団も履物も無いような生活から重い凍傷となって断念、政治家を目指して行動するうち、

国民之友始・1887=21歳：保安条例で東京から追放され、

帝国憲法発布1889=23歳：追放解除となり、大阪朝日新聞の発行する{大阪公論}の記者となるものの、

やがて廃刊となり、朝日新聞九州通信員をしながら、

郡司千島探検1893=27歳：

日清戦争始・1894=28歳：〈日清戦争〉が始ると、福岡日日新聞の従軍記者となって渡鮮、{めざまし新聞}に転じて、台湾征討軍の従軍記者となって渡台したが、その間に廃刊となったため、そのまま台湾に留まり、

日清戦争終・1895=29歳：戦後に設置された総督府の官吏となって重用され、抜擢されて澎湖島の弁務署長となるも満足できず、

八幡製鉄始・1897=31歳：この頃、北海道で浪人するうち、

Bushidou・1899=33歳：通信と広告事業を扱う企業の創造を着想し、

ピア/国産化・1900=34歳：*東京銀座に{日本広告株式会社}を設立して社長に就任、通信事業も兼業するべく{電報通信社}を創立、以後、夜討ち朝駆けをして広告主を開拓し、通信事業と広告代理業の発展に努め、

教科書疑獄・1902=36歳：

日露戦争始・1904=38歳：折からの〈日露戦争〉で大活躍、

日露戦争終・1905=39歳：*戦後、両社を合併して株式会社{日本電報通信社}とし、

満鉄発足・1906=40歳：アメリカの合同通信社と提携して海外通信網の整備に着手、

以後も発展を続けて、

大逆事件判決1911=45歳：社屋を新築した。

明治天皇没・1912=46歳：

第一次大戦始1914=48歳：

本格政党内閣1918=52歳：

大暴落・1920=54歳：

原敬首相暗殺1921=55歳：ニューヨーク・ロンドン・パリ・ベルリンに支局を開設、

水平社結成・1922=56歳：写真部を開設、

関東大震災・1923=57歳：*増資して飛躍を図ろうとした矢先、〈関東大震災〉に遭遇して、社屋他大損失を被るものの、全社一丸となって直ちに復興。正式に社長制を敷いて、社長に就任。

日本時代始・1926=60歳：活動写真部を開設して目覚ましい成果を上げ、

金融恐慌・1927=61歳：新聞通信界の革命といわれた電送写真機がドイツで完成するや、世界に先駆けて導入し、昭和天皇即位式を大々的に内外に報じて喝采を博す。勲四等瑞宝章。その後も発展を続けるものの、

世界恐慌・1929=63歳：

満州事変・1931=65歳：〈満州事変〉後、戦時体制が進んで、

政府の国策通信社設立計画で、{電通}と{新聞連合社}の合併問題が起こり、

二二六事件・1936=70歳：*同社通信部が{同盟通信}に合流したため、{電通}は同盟の広告部を吸収して広告専門の会社となった。

日中戦争始・1937=71歳：

健保+総動員 1938=72歳：

大政翼賛会・1940=74歳：社長を辞任して顧問となり、

日米開戦・1941=75歳：

敗戦・1945=79歳：_没した。